meiji

フィラリア予防の季節です

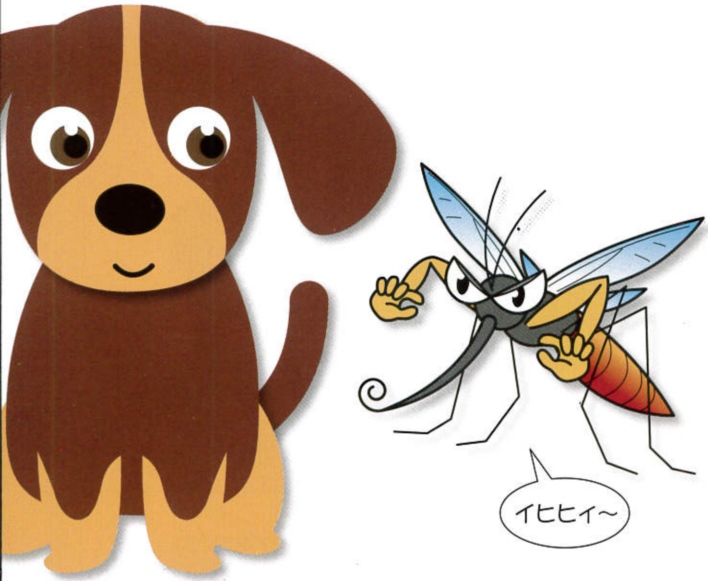
大切な愛犬をフィラリア症から守りましょう。

Meiji Seika ファルマ から
フィラリア予防のおはなし

検査と予防が大切！

検査はどんなものですか？

一般的には血液検査で、免疫学的検査またはミクロフィラリア（子虫）検査があります。フィラリア症は蚊を介して感染するので、蚊が活動している期間に予防をしないと、感染する確率は高くなります。無投薬でこの期間を過ごした犬は、まず検査を受けることが大切です。



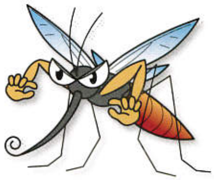
予防する方法は？

現在は予防法が確立していますので、まずは感染しているかどうか検査をしましょう。感染していなければ予防薬を月1回飲ませてあげます。このお薬は蚊から感染した幼虫が心臓にたどり着くまでに殺滅するものです。

そのシーズンの予防は、蚊を見なくなったと思われる日から1ヵ月後まで投薬を継続しましょう。

春

蚊は気温が約15℃を越えると吸血活動を開始します。



「蚊」はフィラリア症の犬を吸血する際、ミクロフィラリア（子虫）を体内に取り込みます。その後、他の犬を吸血すると同時に感染幼虫をうつします。

犬フィラリア症は「蚊」を介してうつる病気です

秋

犬フィラリア症予防は

シーズンの最後まで投薬することが大切です。

投薬は「蚊」を見なくなった1ヵ月後まで続けてください。

獣医師の指示に従って定められた期間投薬して下さい。

●お気軽に当病院にご相談ください。

Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋 2 - 4 - 16

0100352 shu PNCOL-4
1201

フィラリアは

犬フィラリア症とはどんな病気?

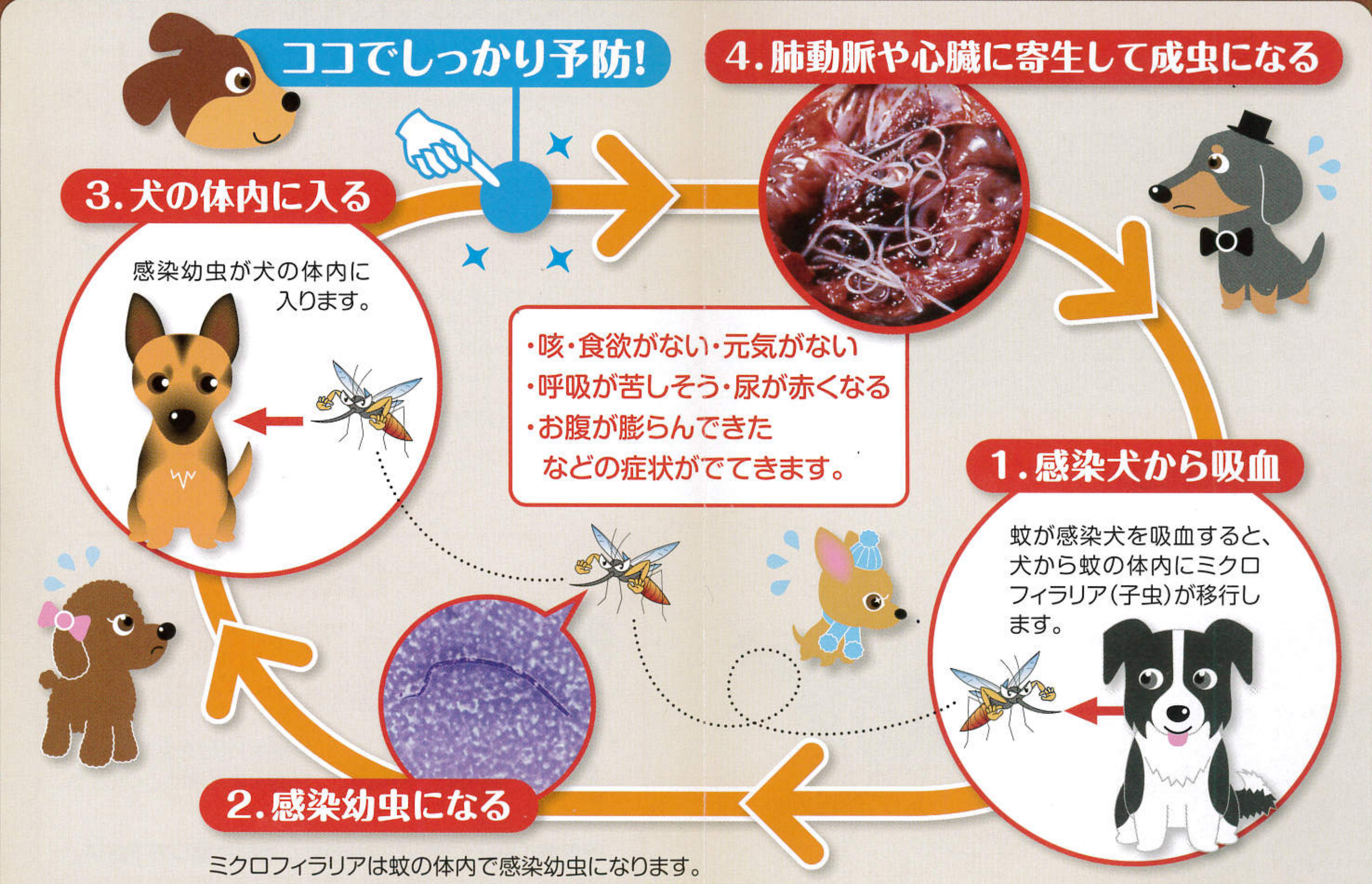
フィラリア症は、線虫類に属する犬糸状虫(フィラリア)が心臓と肺動脈に寄生することによって起こる病気です。親虫は体長約15～30㎝あり、寄生すると様々な循環器障害を起こし、死に至ることもあります。蚊の媒介により他の犬に感染します。

犬フィラリア症はどんな症状?

親虫が心臓と肺動脈に寄生すると様々な症状が出てきます。ほとんどは慢性経過をたどりますが、まれに急性症状を示す場合があります。

- ○咳をする
- ○運動や散歩を嫌う
- ○痩せてくる
- ○毛艶が悪くなる
- ○食欲が無くなる
- ○散歩や運動後に失神する
- ○呼吸が浅く速くなる
- ○貧血（口や目の粘膜が白い）
- ○腹水（お腹が出てくる）
- ○血尿（赤みを帯びた尿をする）

フィラリアは、月1回のお薬でしっかり予防!



フィラリア予防は継続することが大切です!

蚊を見なくなったと思われる日から1ヵ月後に最後の投薬をし、その年の予防は終わりです。

※蚊の発生時期、投薬期間は地域により異なります。